

小学生だからこそできる地域貢献

－ 世良田祇園まつりの復活と郷土愛の育成 －

群馬県太田市立世良田小学校 校長 大島 修

1 主題設定の理由

本校は、徳川氏発祥の地である世良田東照宮、長楽寺、新田荘歴史資料館等がある歴史公園の一角にある。徳川地区には縁切寺で有名な満徳寺やその資料館もある。本地域の有名なお祭りである「世良田祇園」は、八坂神社のお祭りとして発祥し、江戸時代より現在まで継続され、東京神田の明神祭、埼玉県秩父市の妙見祭と並び、一時期は関東三大祇園祭として有名であった。しかし、昭和32年の分村合併により地域が半分になり、その後衰退していった。

本校の総合的な学習の時間「かがやきタイム」では、中学年を中心に地域の学習を進めており、地元の祭についても調べたりしている。学習では、問題解決力の向上はもちろんのこと郷土愛の向上も図っている。また、地域の有識者より世良田祇園のさらなる発展のために小学校が協力できないかという要請もあり、総合的な学習の時間と課外活動とを効果的に使うことで、より地域を知り、郷土愛を高められる、また地域への貢献もできると考え教育課程に組み込んでいる。

ここでは、小学生は地域によって守られて成長していただくだけでなく、小学生ができる地域貢献があることに気付かせ、地域振興の一躍として活躍できる気持ちを育てる活動を紹介する。

2 実践の概要

(1) 地域環境を活かした実感のある学習

総合的な学習の時間「かがやきタイム」で、特に中学年では地域学習で伝統文化や世良田祇園の学習について力を入れている(右表)。学校周辺が神社仏閣等の歴史的環境に恵まれてることから、地域人材も豊富である。新田荘歴史資料館は本校と隣接

表 総合的な学習の時間の内容

学年	時間数	内 容
3年生	35時間	伝統文化、自然・環境、地域の人々の暮らし
4年生	35時間	伝統文化、環境、地域の人々の暮らし、健康
5年生	70時間	福祉、自然・環境、伝統文化、情報
6年生	70時間	伝統文化 国際理解、キャリア教育、福祉

しており、社会科では、すぐに学習に利用できる環境である。調べ学習などで文献を使うこともあるが、授業で現地へ行って、直接調べたり聞き取ったりする学習展開が行われている。また、太田市は、校外学習に最大6時間程度までスクールバスを利用できる制度があり、積極的に校外学習を取り入れている。

また、国語科に限らず、多くの教科で学習後の新聞や発表物づくりを積極的に行っている。学校に隣接した歴史施設が多いことやスクールバスでの校外学習では、実際に実物を見て説明を聞いたりして学習ができるために、質の高い新聞や発表物になると共に、国語の思考力・表現力の向上に寄与している。新聞や発表物づくりは、各種情報を集めたり、実物を見たり、専門家から説明を聞いたりできるために、資料活用能力も高まっている。このような取組もあり、全国学力学習状況調査の国語B問題では好成績をとっている。



写真 世良田東照宮で宮司さんより説明 3年生

(2) 世良田祇園まつりへの貢献

世良田祇園まつりは、先に述べたように江戸時代に八坂神社のお祭りとして発祥し、一時期は関東三大祇園祭として有名であったが、昭和32年以降は衰退していった。平成24年の世良田祇園まつりの復活まで約50年間に渡り祭りは行われず、歌や踊りは忘れ去られていった。このような経緯があり、地域の人たちは過去の祭を再現したいと願っている方々が大変多い。そして、当時盛大に行われていた祭りと共に唄や踊りを復元して盛り上げたいと考える地域の方もたくさんいた。そこで、祭を盛り上げるために学校が協力することが大変効果的であると考えた。そして、平成25年には、6年生が総合的な学習の時間と国語の時間を使い、「世良田祇園まつりガイドブック」を作成して地域に配付した。さらに、平成28年には60年ぶりの世良田小唄の復活、平成29年には新たに作成した踊りを学校をあげて地域と協力して普及を行った。

① 世良田小唄の復活

世良田小唄は、昭和27年当時の本校教諭が作詞作曲して誕生し、世良田祇園まつりで歌われていたが、昭和32年の分村合併で地域が半分近く小さくなり、わずか数年で衰退していった。

本校の3年生は、総合的な学習の時間で地域理解の学習を行っており、地域を代表する世良田祇園についても調べ、学習を行っている。昨年度は地域からの要望もあり、60年ぶりの世良田小唄の復活のために協力した。

世良田小唄を祭を通して広めるには、小学生が覚えるのが一番と考えた。60年以上前の楽譜を見つけ、地域の民謡の先生が唄を復元し、さらに三味線の伴奏で、小学生に教えた。28年度は、3年生が世良田祇園まつりで披露した。また、校長は、小唄の普及のために唄や伴奏をホームページで公開すると共にCDを作成して3年生の全家庭と地域に配付した。また、学校でも給食の時間に連日流して、該当学年だけでなく全校児童が口ずさめるようにした。そして、世良田祇園まつりの当日は、開会式のオープニングでステージ発表を行った。

② 世良田小唄の踊りの完成

60年以上前は、唄と共に踊りも存在していた。しかし、唄は歌詞として残っていたが踊りを誰も覚えていなかった。地域の高齢者でさえ、唄は聴いたことがあるが踊りの記憶はなかった。そこで、世良田祇園まつりの事務局は、平成28年末に踊りの師匠の協力を得て新たに踊りを作った。29年2月に完成した踊りの披露と共に普及に向けて、地域の有志が毎月集まり踊りを覚えた。そして、5月には小学生に教える計画をした。3・4年生は、総合的な学習の時間で地域の学習で世良田祇園まつりを



写真 八坂神社見学 4年生



写真 世良田祇園まつりガイドブック



写真 祭のステージ前で小唄を披露



写真 日本舞踊の先生による踊りの指導



写真 会場となる旧国道交差点での踊りと屋台

調べるのと平行して、唄と踊りを教えていただき、普及を目指した。校長は踊りの普及に向けて、練習用のDVDを作成し、地区の有志200名以上及び3・4年生の保護者に配付した。そして、今年度の祇園祭では、世良田小唄のステージ発表と共に、会場で踊りの披露を行った。小学生の踊りに地域の方もたくさん参加し、世良田小唄と共に普及と祭の盛り上げに大変役立った。

3 児童の変容と教育上の効果

地域理解の学習を進めていた児童にとって、世良田小唄と踊りを覚えることに全く抵抗はなく、自然に、そして意欲的に取り組んでいった。踊りを教えてくれる地域の方との交流も大変好評で、今年度は3回ほど実施したが、回を重ねる度に協力者が増えていった。

本学習を通して、児童へは「歌や踊りを教えてもらい当日披露する」だけではなく、「披露したことで祭を盛り上げるだけでなく地域貢献になっている」と話した。そのために、職員が共通理解して指導に当たった。祭を盛り上げるために、唄と踊りの復活は、地域の多くの方に喜ばれ、子ども達の励ましにもなり、小学生でも十分地域貢献できるという意識をもつようになった。この取組は、新聞等でも紹介されて普及の輪が広まり、児童の郷土愛も向上したと考える。そして、大人になっても地域のために活躍する精神の育成にもつながると考える。

4 職員も地域貢献

本校は、児童数200名程度の小規模校であり、それに伴い職員の数も少ない。そのため地域人材の活用は、学習効果を高めるために重要である。しかし、地域の協力を得て教育活動を進めるだけではいけないと考える。

このようなことから、世良田祇園まつりのオープニング等の司会は、本校の若手女性教員が2～3名で毎年担当している。子ども達が地域のために貢献するだけでなく、職員も地域の祭の盛り上げに一役かかっていて、地域の方々から大変喜ばれている。



写真 ステージ司会をする本校女性教員

参考:世良田祇園まつり Webページ <http://seradagion.jp/>

太田市立世良田小学校 Webページ <http://www.ota.ed.jp/serada/>